

# 年 頭 所 感

～ジャンルの危機 これってなに～

一般社団法人 京都府タクシー協会

会 長 筒 井 基 好

新年あけましておめでとうございます。令和7年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年はライドシェア議論のさなか、「DXの推進とアライアンス（事業者連携）」を掲げ、京都でのさまざまな取り組みを行ってまいりました。なんでもかんでもDXだけで済むとは考えませんが、これはひとえに会員の皆さまや行政の協力あつての実践であり、経営者はしっかり勉強することの重要性を感じました。「誰が言ったか」ではなく「何を言ったか」が大事であり、これは聞く側の能力が問われます。これだけの情報氾濫時代、発信者に左右されることなく真偽の判断基準を持ち、またその価値観は時代のスピードとともに、是非は別として、多様に変化するものです。

昨年大河ドラマ「光る君へ」では平安時代を舞台にゆったりと流れる悠久の時の中に描かれる人間模様に魅了されました。今年の「べらぼう」では江戸中期、天下泰平、文化隆盛の時代、活気あふれる物語を楽しみにしています。

ある研究によると、現代人の情報収集量は圧倒的に多いらしいのです。現代人が一日に消費する情報量は、「べらぼう」の江戸時代と比較すると約一年分、紫式部の平安時代と比べると、なんと一生分に相当するらしいです。私が生まれた1970～1980年代と比較しても、現代は約5倍になるらしいです。

とんでもない情報過多時代になりました。世の中便利さの享受はもちろんありますが、と同時に若干の息苦しさも覚えます。しかし我々より下の世代、これからの人たちはこの時代を「当たり前」として生きるのです。彼らはそれを日常として使いこなし、さらに工夫を重ねて、時代を創っていくのです。

技術的な部分や情報処理能力は到底かないません、しかしここまで培ってきた経験は伝えていきたい。大事な、失ってはいけない「モノ」があります。スタートアップやAIの活用、SNSなど様々な「ワード」であふれていますが、事業経営において、もっとも大事な理念、信念、健全な社会が続くかぎり、次代に引き継ぐのはもちろんのこと、この現代でも不変の価値として大切にしていかなければなりません。

効率化や生産性の向上は重要課題であります。が利用者としてそこではたらく人たち、協力してくれる仲間たち、皆にとって幸せな世の中を創る、この原理が失われる経営はありえま

せん。いま社会にとってなにが必要か、そして私たちはそこでタクシーを通じてなにができるのか。自身に問いかけながら、また会員の皆さまとも課題共有しながら、今年一年も様々なチャレンジを繰り返していきたいと思います。

（ジャンルの危機についても触れておきます）

祖父の代、父の代よりタクシー業を引き継いできた事業者がほとんどで、記憶に新しいところではコロナ禍、遡れば、東日本大震災やリーマンショック、規制緩和やバブルの崩壊などなど、様々な世間の波にさらされてきた我々の業界、そのたびに知恵を搾りあい、努力を重ね、供給を絶やすことなくここまで継続してきました。

「令和」のこの時代の大きな課題は「プレーヤーが変わる」ことです。ネットワーク技術の発達により、あらゆる場面でゲームチェンジャーがあらわれ、その業界の担い手が変わる現場を見てきました。なによりも誰よりもその業界を熟知している者たちが、ネットワークによって駆逐されていく、いままでの課題とは次元が違う壁に我々は立ち向かわなければならないのです。

アプリ配車からキャッシュレス、日本版ライドシェアから今度は自動運転まで、業界内では為し得なかったテクノロジーが

もう目の前です。私たちがこの事業の担い手足りえるのか、が問われているのです。タクシー事業者として、というより、経営者として研鑽していかなければなりません。

ひとりひとりでできないことは協力して解決していく、本年も引き続き協会では「DXとアライアンス」を掲げ、利用者の皆さん、そして社会に答えを出していく、それも「公共交通のプロ」として堂々と実践していく一年にしたいと思います。

会員の皆さまにおかれましては、どなたでもご意見や諫言を賜り、京都のタクシー事業の安定と業界の活性化に向け、お力を貸していただきたいと思います。地域で困りごとがあれば遠慮無く執行部にご連絡いただければ、直ちに駆けつけ実情を把握し、関係者と議論を重ねてまいります。

本年が希望に満ち・充実した一年となりますよう心からご祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

以上